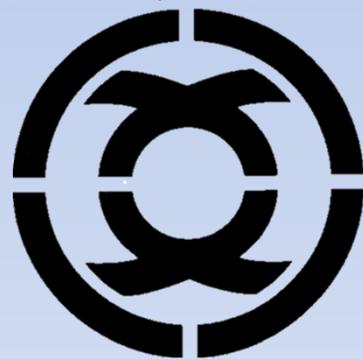


みんなで作ろう！

セーフコミュニティちちぶ

外傷サーベイランス委員会の
活動概要



報告者：委員長 西 秀夫

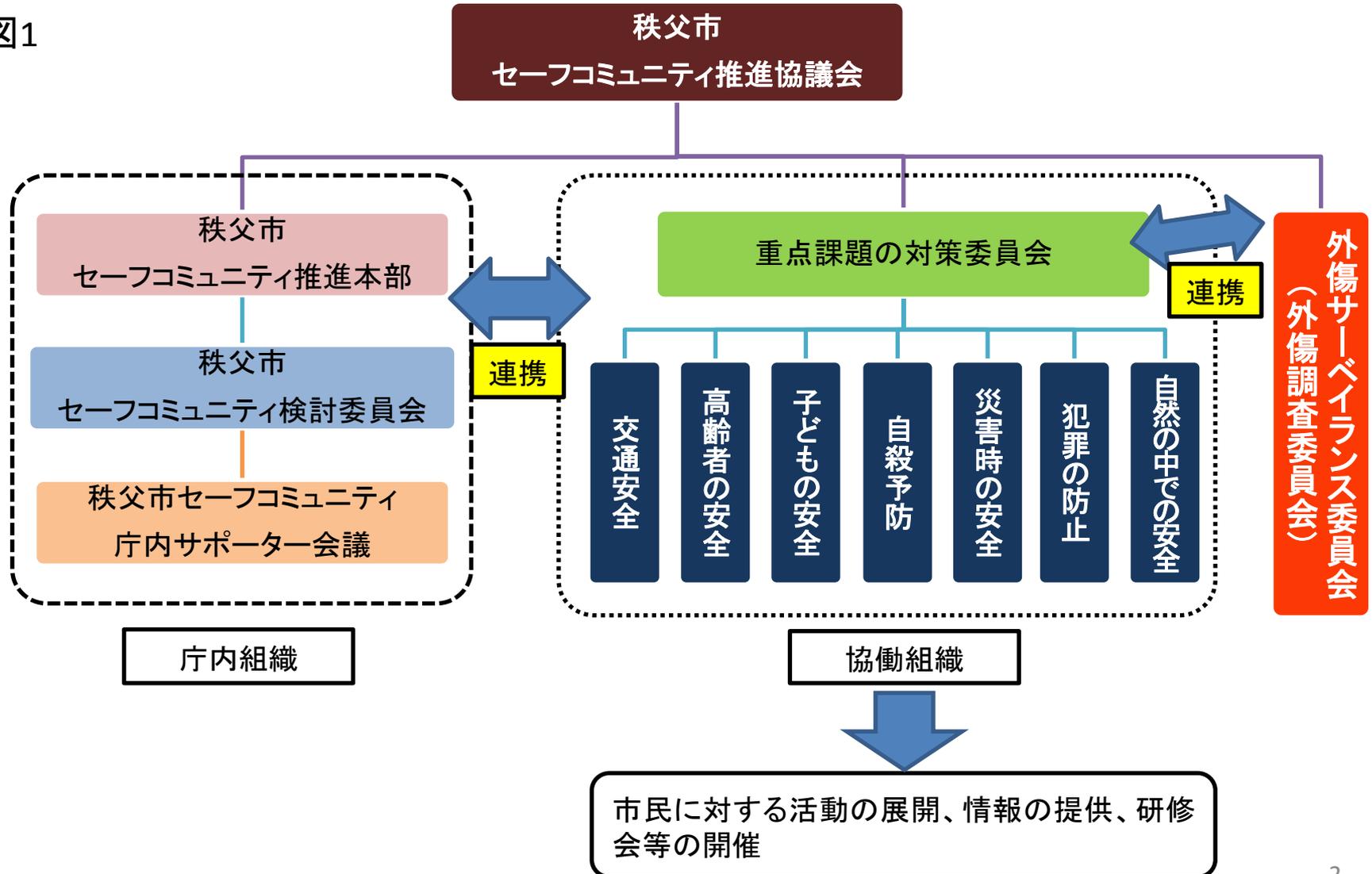


1 外傷サーベイランス委員会の概要



分野横断的な協働・連携の仕組み

図1



外傷サーベイランス委員会の設置



○設 置:2014年2月

○委員長:秩父郡市医師会医師

○委員数:10人

○役 割:

①対策委員会の取組みを根拠に基づいた活動とする助言

②予防活動の成果指標についての検証

③活動に関する情報の提供

外傷サーベイランス委員会の委員構成

委員長： 西 秀夫(秩父郡市医師会)
副委員長： 水村容子(東洋大学)

表1

No.	分野	組織名称	委員数
1	医療機関	秩父郡市医師会	1人
2	教育・研究機関	東洋大学、東京大学	2人
3	専門機関	日本セーフコミュニティ推進機構	1人
4	行政機関 (データ保有)	埼玉県秩父保健所、秩父警察署 秩父消防本部、秩父市立病院	4人
5	行政機関(事務局)	秩父市(地域政策課、危機管理課)	2人

アドバイザー

(データ収集・分析)
実務者

※外傷サーベイランスに医師会が参画する意義として、医療機関との連携の促進につながっている。



外傷サーベイランス委員会の取組経緯

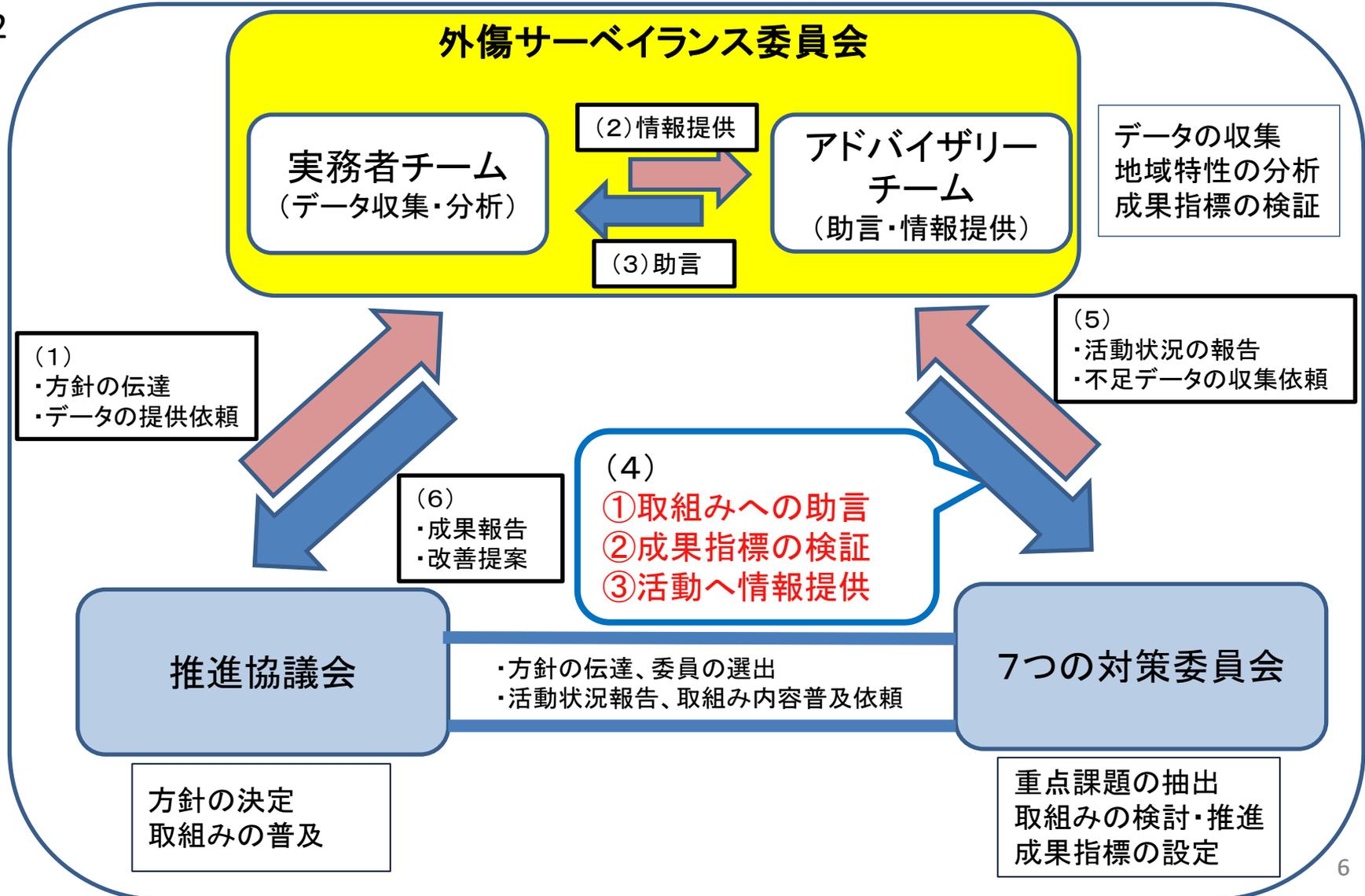
表2

回	年月日	主な議事内容
1	2014年2月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフコミュニティ概要について ・地域特性について ・安心・安全なまちづくりアンケートについて ・市立病院入院患者の外傷データについて
2	2014年4月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・事前審査への対応について ・各対策委員会の取組内容について ・今後の外傷サーベイランス委員会の取組について
—	2014年5月28日	・セーフコミュニティ取組みの中間整理
3	2014年8月11日	・アドバイザー、実務者の役割分担
4	2014年11月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地現地審査の検討 ・対策委員会の進捗状況確認
5	2015年1月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・委員実施の調査状況の報告 ・対策委員会の進捗状況確認
6	2015年5月27日	・現地審査報告資料の検討
—	2015年6月16日	・セーフコミュニティ取組みの中間整理



外傷サーベイランス委員会の役割相関図

図2



成果指標の評価・検証

成果指標の設定、評価、検証のしくみ

図3

課題抽出

- 課題抽出について各対策委員会へ助言

指標設定

- 課題対策の指標を設定
- 適切な指標を提案

評価

- 設定した指標の達成状況を評価

指標検証

- 指標の改善が課題解決につながっているかを確認

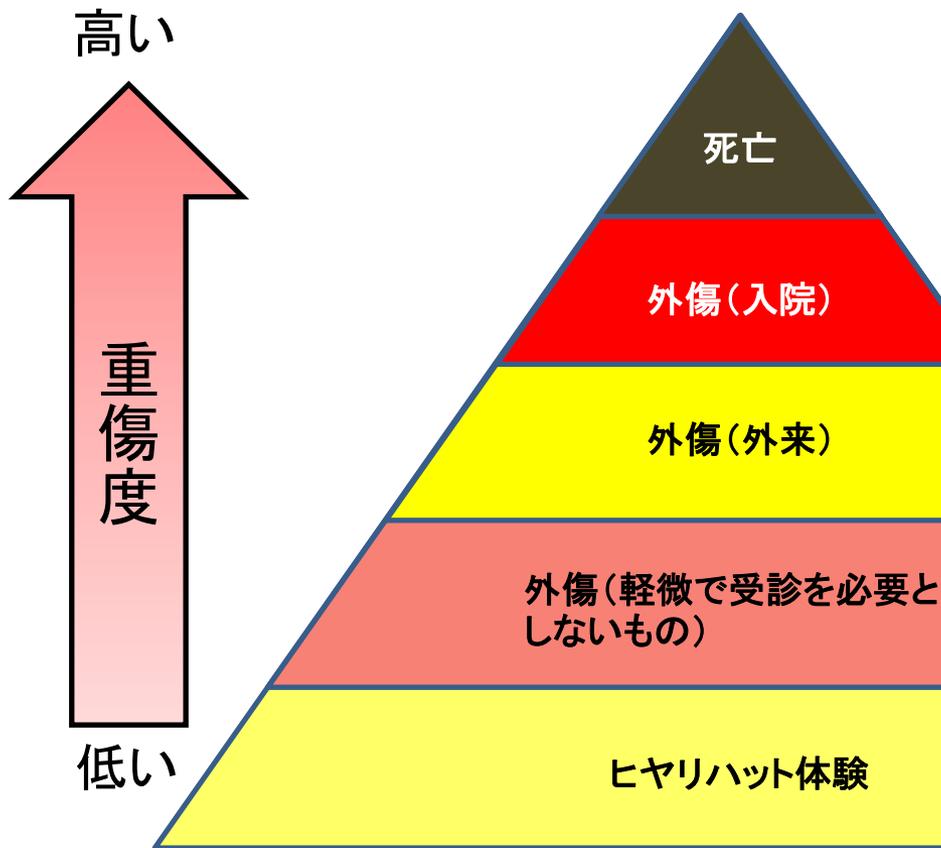


2 外傷記録の収集

外傷の発生頻度と原因を継続的に記録する仕組み

図4

＜関連する主なデータ＞



統計データ

- ①人口動態統計
- ②労働災害データ
- ③警察統計
- ④救急搬送データ
- ⑤学校災害給付請求データ
- ⑥市立病院外傷記録

独自収集データ

- a.安心安全なまちづくりアンケート(2013年6月)
- b.高齢者のケガの実態調査(2014年9月)
- c.こどもの家庭内でのケガの実態調査(2014年12月)

外傷の発生頻度と原因を継続的に記録する仕組み

＜収集している既存の統計情報＞

人口動態統計や救急搬送データなどの既存の統計情報を利用して、外傷の発生状況を系統的に収集している。

表3

No	統計等の名称	実施主体	使用する情報
①	人口動態統計	厚生労働省	死亡原因、自殺情報など
②	労働災害データ	厚生労働省	労働災害に関する情報
③	警察統計	警察庁	交通事故、犯罪に関する情報
④	救急搬送データ	秩父消防本部	事故やケガによる救急搬送情報
⑤	学校災害給付請求データ	日本スポーツ振興センター	小中学生のケガの情報

外傷の発生頻度と原因を継続的に記録する仕組み

＜市で行っている既存のアンケート等の調査データ＞

表4

No.	調査名	対象者	使用する情報
A.	市民満足度調査	16歳以上の市民	防犯・防災施策など市の施策に対する重要度と満足度
B.	高齢者日常生活圏域ニーズ調査	65歳以上の市民	閉じこもり・転倒・口腔機能・物忘れなどのリスク状況、高齢者の虐待
C.	地域福祉に関する市民意識調査	20歳以上の市民	地域社会との関わり、ボランティア活動への参加、福祉情報の入手手段、福祉サービスについて、災害時の避難
D.	障がい福祉アンケート	障害者手帳所持者	障がいの内容、生活環境、保育・教育の状況、就業状況、経済状況、悩み事や相談、地域社会との関わり、防災・防犯への備え
E.	子育て支援ニーズ調査	保育園～小学校通学世帯	病気・ケガによる休暇状況、地域社会への関わり、地域医療について



○外傷記録の対策委員会での活用

日本ではすべての外傷記録を整理したデータベースが存在しない。
 セーフコミュニティへの取組みによって、既存データの継続的な収集につながった。
 既存データでは把握できないヒヤリハットのデータは、独自調査により補完していく。

表5

頻度	名称	交通安全	高齢者の安全	子どもの安全	自殺予防	災害時の安全	犯罪の防止	自然の中での安全	所管
毎年実施	①人口動態統計	●	●	●	●	●	●	●	保健所
	②労働災害データ	●			●	●		●	労働基準監督署
	③警察統計	●	●	●	●	●	●	●	警察
	④救急搬送データ	●	●	●	●	●	●	●	消防
	⑤学校災害給付請求データ			●					教育委員会
	⑥市立病院外傷記録	●	●	●	●	●	●	●	市立病院
3年毎実施	A.市民満足度調査	●	●	●	●	●	●	●	市
	B.高齢者日常生活圏域ニーズ調査	●	●			●			市
	C.地域福祉に関する市民意識調査		●		●	●			市
	D.障がい福祉アンケート		●		●	●			市
	E.子育て支援ニーズ調査			●		●	●		市
	a.安心安全なまちづくりアンケート	●	●	●	●	●	●	●	市



3 独自の取組み、各種助言

(1)独自のサーベイランスの取組み

①アドバイザーチームによる各種アンケートの実施

- a. 安心安全なまちづくりアンケート(2013年6月)
 - 受診にはいたらないケガ、ヒヤリハットの発生状況を把握するためのアンケートを実施した。 回答数 1,229人

- b. 高齢者のケガの実態調査(2014年9月)
 - 回答数 466人

- c. こどもの家庭内でのケガの実態調査(2014年12月)
 - 回答数657人
 - 「高齢者」や「乳幼児のいる世帯」を対象とした家庭内のケガの実態把握
 - 対策委員会において、結果をもとにした啓発チラシの作成



セーフコミュニティ活動による新たな収集データ例 (安心安全なまちづくりアンケート)

秩父市安心・安全なまちづくりアンケート (セーフコミュニティの認証に向けて) 調査協力をお願い

秩父市では、世界基準の安心・安全なまちづくりを目指して、WHO（世界保健機関）地域安全協働センターが推奨する「セーフコミュニティ」の認証取得に向けて取り組んでいます。セーフコミュニティは、「事故やケガは偶然起こるのではなく、予防することができる」という理念に基づいて、根拠となるデータを検証しながら、市民の皆さん、町会、各種団体、行政などが一体となって対策を検討していく活動です。根拠となるデータは、人口動態統計や警察統計、救急搬送データなどを活用しますが、秩父市の事故やケガの要因を正確に特定していくためには、多様な原因や背景を具体的に把握・検証していく必要があります。

そこで、このたび、市民の皆様（18歳以上）から無作為で抽出させていただいた3,000人の方々を対象に、アンケートを実施させていただくことにいたしました。皆様からお寄せいただく事故やケガの情報は、今後、秩父市が日本一安心・安全なまちづくりを進めていく上で、大変貴重な資料として活用させていただく予定です。

お忙しいところ恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、下記の記入要領に沿ってご回答いただけますようお願い申し上げます。

なお、対象者は平成25年6月1日現在の住民情報から抽出しています。以降の異動は反映されておりませんので、ご了承ください。

<記入要領>

- ☆ この調査票は、封筒の宛名に記載されている方が、すべての項目にご回答ください。
- ☆ ご回答は、あてはまる番号を○で囲んでいただくものと、枠の中に数字等をご記入いただくものがあります。
- ☆ 「その他」に該当する場合は、()の中に具体的な内容をご記入ください。
- ☆ 平成25年6月1日時点の状況について、ご回答ください（特に指示のある場合を除きます）。
- ☆ 平成25年7月18日（木）までに、同封の返信用封筒を投函してください。

いただいた回答は、個人情報保護に配慮し、統計学的に処理するとともに本調査以外の目的には利用いたしません。また、集計・分析作業は、大学等の研究機関に協力していただく予定です。

平成25年6月

秩父市役所 総務部 危機管理課

この調査票について、ご質問やご不明な点がありましたら、下記へご連絡ください。

お問い合わせ先 秩父市総務部危機管理課セーフコミュニティ担当
TEL 0494-22-2206（直通） FAX 0494-22-1363

2013年6月、18歳以上の市民対象に
「安心・安全なまちづくり」についてのア
ンケートを実施

①実施期間

2013年6月21日～7月18日

②サンプル数

3,000人(無作為抽出)

③回答数

1,229人(回収率 41.0%)

④調査結果例

・自動車運転時のヒヤリ経験

⇒60%

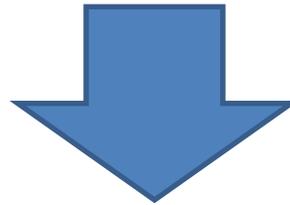
・防犯活動、防災活動は地域共助で取
り組むべき

⇒60%

②市立病院の外傷記録－1

秩父市立病院の協力により、診療情報記録により包括的な受傷状況収集のしくみを構築中。

市立病院には救急搬送の30%が占めており、中心的な医療機関となっている。



年齢、性別、住所、発症日、(ICD10に基づく)受傷の種類

2012年11月～ 入院患者の情報収集開始

2014年 8月～ 外来患者の情報収集開始

2015年3月末時点の情報収集件数

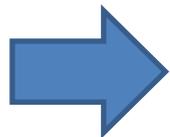
入院・・・400件 外来・・・640件

②市立病院の外傷記録－2

これまでの診療情報記録から、傾向としては以下の事例が多い。

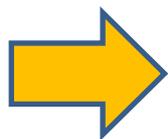
- ①ハイリスク者：高齢者の女性
- ②受傷起因：転倒
- ③受傷内容：大腿部の骨折

市立病院の試算では、



大腿部骨折によって2か月入院すると、退院までの医療費が約260万円かかる。

(必要な治療のための診療報酬の合計額)

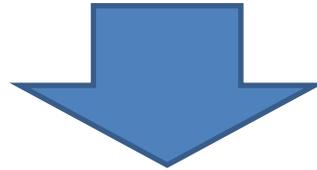


**転倒予防体操
自宅等の環境整備(転倒危険箇所対策)**

の重要性が説明された

②市立病院の外傷記録－3

既存の収集情報である救急搬送記録を補完する情報を得ることが可能となった。



1. 救急搬送によらず、自分で来院する受傷患者の把握が可能となったことで、受傷状況の把握においてカバー率を向上させることができた。
2. 救急搬送記録では不明確だった受傷について、診療情報に基づいた詳細情報の収集が可能になった。

(2) 対策委員会の活動に対する助言

対策委員会の活動に委員それぞれの専門性をもとに助言

1 体制・課題設定への助言・意見

【家庭内での子どものケガ防止】

定期健診の際に乳幼児にアンケート収集すると良い。

⇒体制整備のため、対策委員会に保健センターを追加。

2 対策委員会に新たな取組みの提案

【自殺ハイリスク群への対応】

アルコール依存者へのアプローチをすべき。

⇒アルコール使用障害スクリーニングテストを実施し、問題
飲酒者に対して適正飲酒を啓発。

3 成果指標への助言

【高齢者の家庭内での転倒防止】

ケガを防ぐことが目的であるので、「家具の固定がされているか」という成果指標も有効。

(3)新たな展開 医師会との災害協定

セーフコミュニティを契機に、医師会との連携が深まった。外傷サーベイランス委員長が、災害時における医療救護活動に関する協定の締結を助言。

- ①災害時の医療救護活動
- ②医薬品の備蓄
など・・・



4 現状の課題と今後の方向性

現在の課題

1 データの収集

個人情報の問題から、収集できるデータに制約がある。

2 さらに情報収集

厚生労働省の推奨する取組みは確認できるが、その他の有効な情報の入手はできていない。

3 データ面における医療機関との連携

市立病院以外の医療機関との連携体制を構築中。(きっかけとして、災害協定の締結)

今後の方向性

- 1 市立病院の外傷情報を分析し、対策委員会に情報提供していく。
- 2 実務者チームは、各組織で提供可能な情報の質の向上に努める。
- 3 アドバイザリーチームは、対策委員会の取組みに対して、秩父の実状にあった実証事例を紹介していく。

年2回程度は委員会を開催し協議を進める。



ありがとうございました！